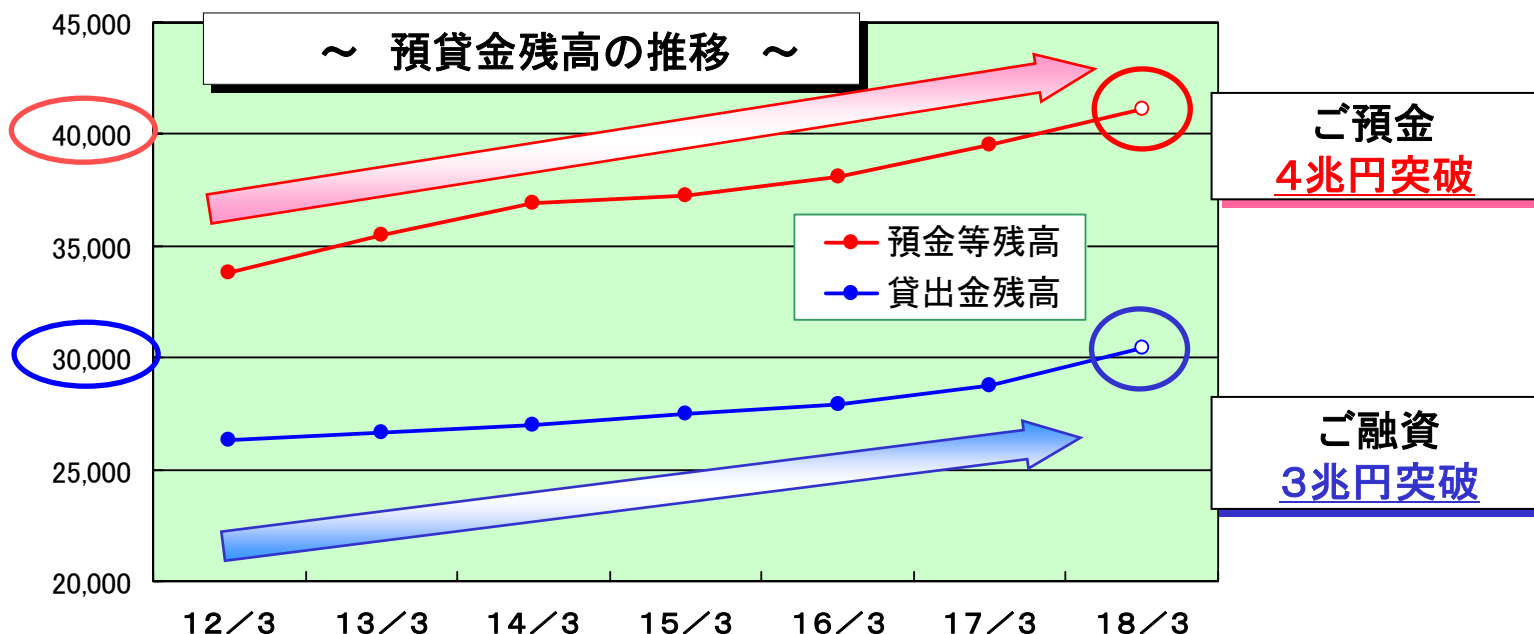


A wide-angle photograph of a large white suspension bridge, likely the Akashi-Kaikyo Bridge, spanning a deep blue body of water. The bridge features tall white pylons and numerous suspension cables. In the background, there are green hills and a small island. A small boat is visible on the water in the foreground. The sky is a clear, pale blue.

平成17年度決算状況

預貸金残高の状況

- おかげさまで残高は9年連続の増加となりました
- ご預金は4兆円、ご融資は3兆円の大台を突破



< 預貸金残高 >

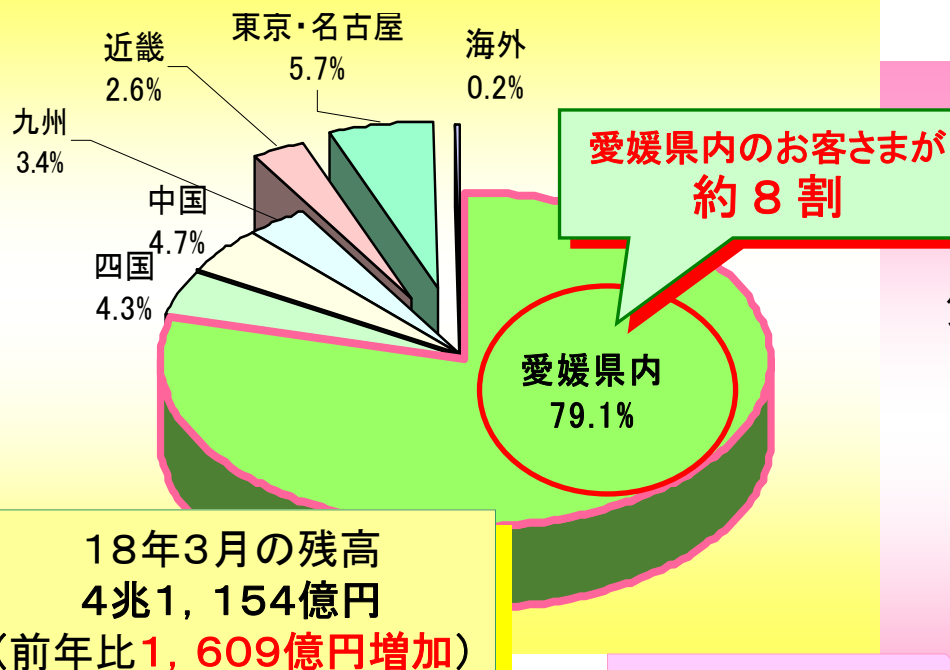
(億円)

	18/3	前年度比	増加率
預金等残高	41,154	+ 1,609	+ 4.1%
うち個人預金	26,668	+ 136	+ 0.5%
貸出金残高	30,421	+ 1,639	+ 5.7%
うち個人融資	7,771	+ 471	+ 6.5%

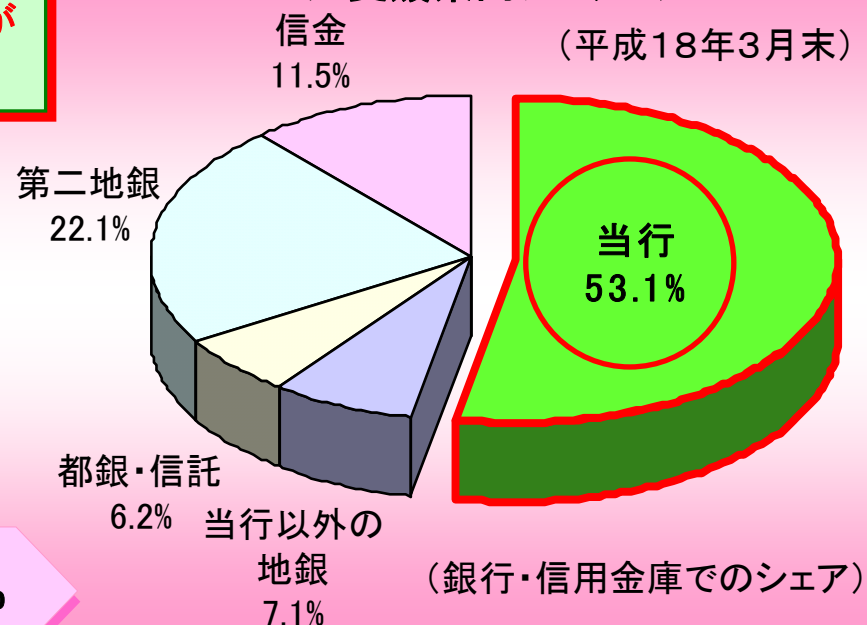
ご預金の状況

- 愛媛県内のお客さまのご預金が約8割を占めております
- おかげさまで、愛媛県内のシェアは5割を超えております

< 預金等残高 地域別構成比率 >



< 愛媛県内シェア >



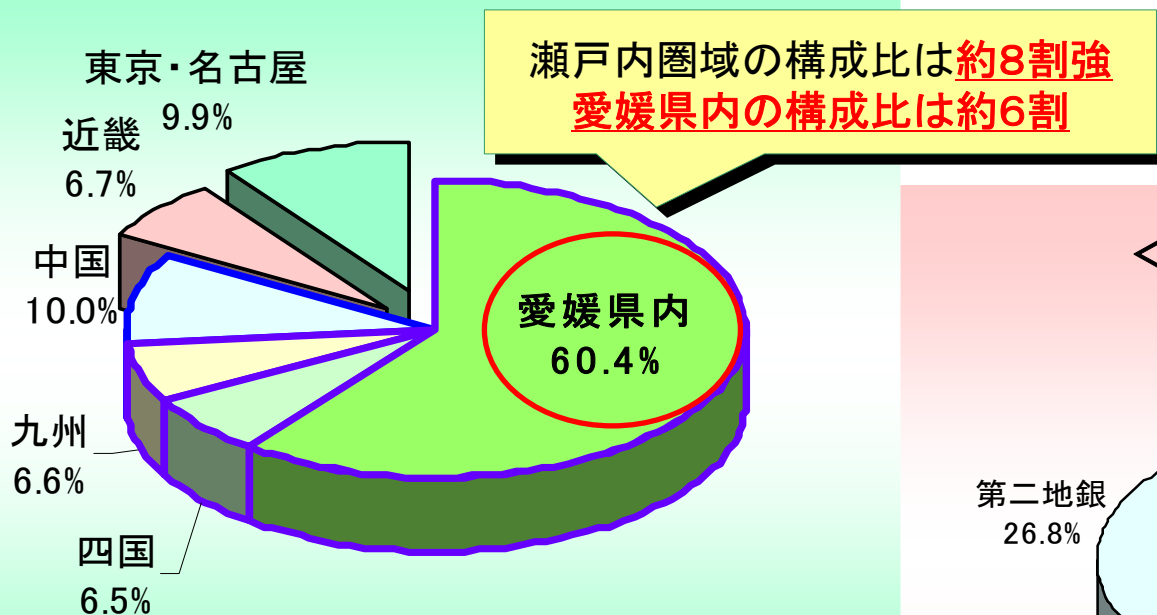
シェアは約53%

ご預金は皆さまからいただく「ご信頼のバロメーター」と考えております
引き続きご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます

ご融資の状況

● 愛媛県を中心に瀬戸内圏域のお客さまに広くご利用いただいております
 (約6割が愛媛県内、約8割強が瀬戸内圏域のお客さま)

< ご融資残高 地域別構成比率 >

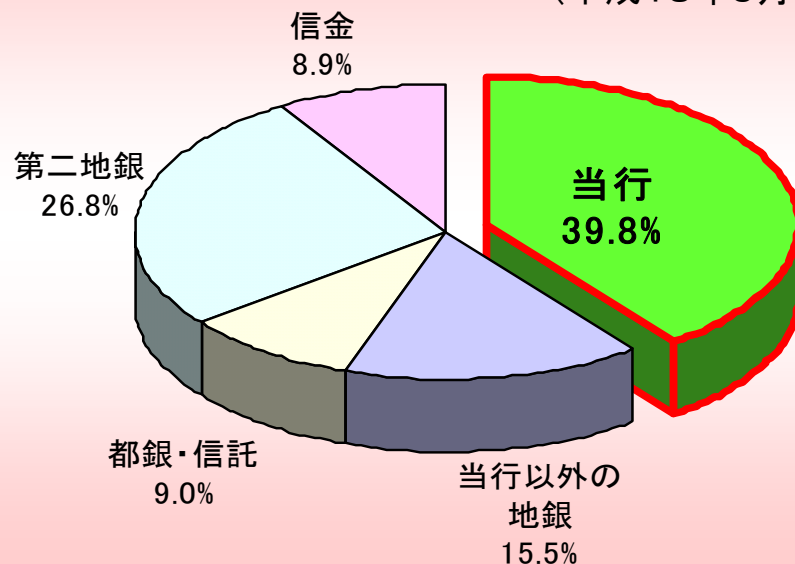


18年3月の残高
 3兆421億円
 (前年比1,639億円増加)

シェアは約40%

< 貸出金 愛媛県内シェア >

(平成18年3月末)



開示不良債権の状況



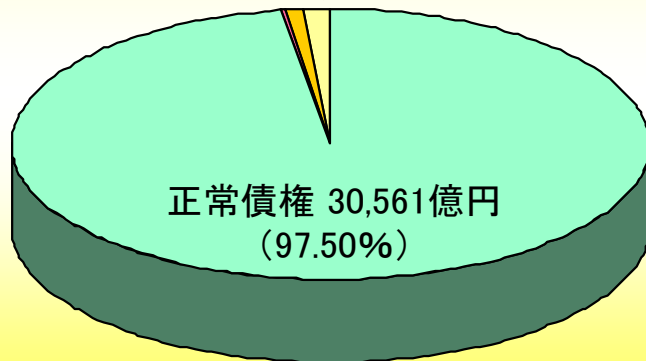
伊予銀行

● 健全性の目安となる開示不良債権比率は、2%台半ばまで低下しております
(残高は前年比190億円減少)

＜金融再生法開示債権の状況＞

(平成18年3月末)

開示不良債権 782億円
(2.49%)



＜開示不良債権に対する保全率＞

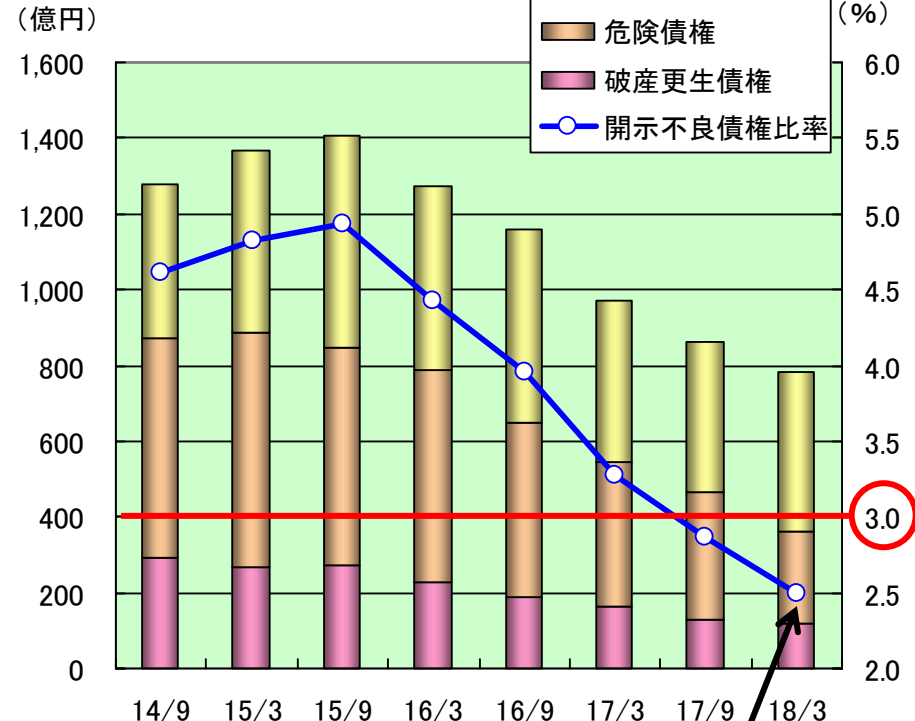
保全率 84.08 %

貸倒引当金
258億円

担保保証等
399億円

開示不良債権残高782億円

＜開示債権額・比率推移＞

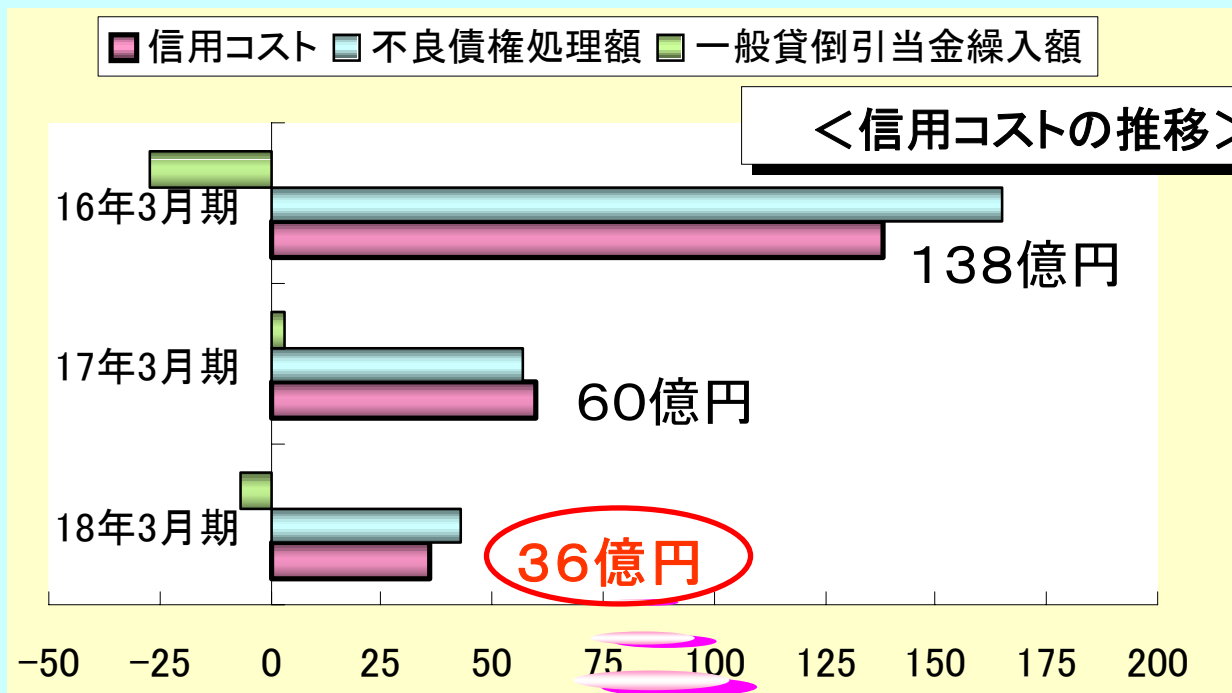


開示不良債権比率 2.49%
(地銀平均4.70%)

信用コストの状況

● お取引先さまの経営改善のご努力により、
信用コストは一段と減少しております

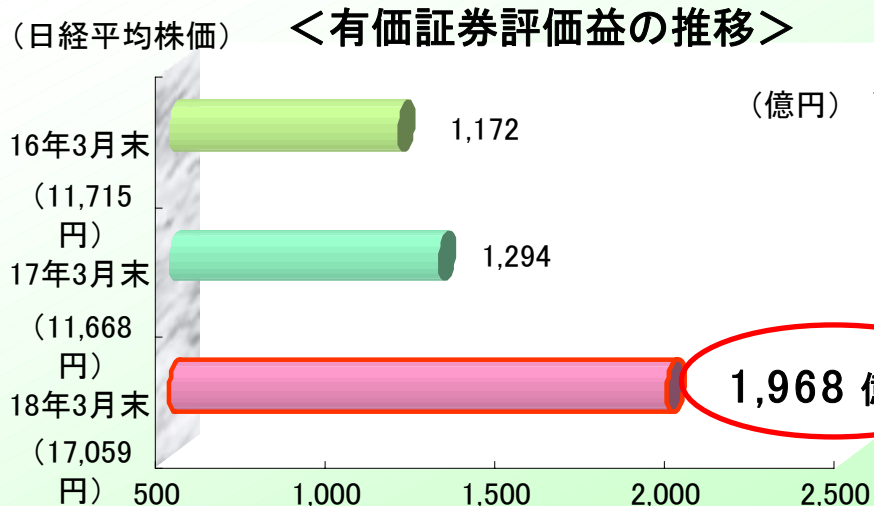
※信用コストとは … 貸出の引当・償却等、不良債権処理に伴い発生する損失です
(一般貸倒引当金 + 不良債権処理額)



費用であるため少ない方がよい

有価証券評価益および自己資本比率の状況

- 有価証券評価益・自己資本比率ともに高水準を維持しております

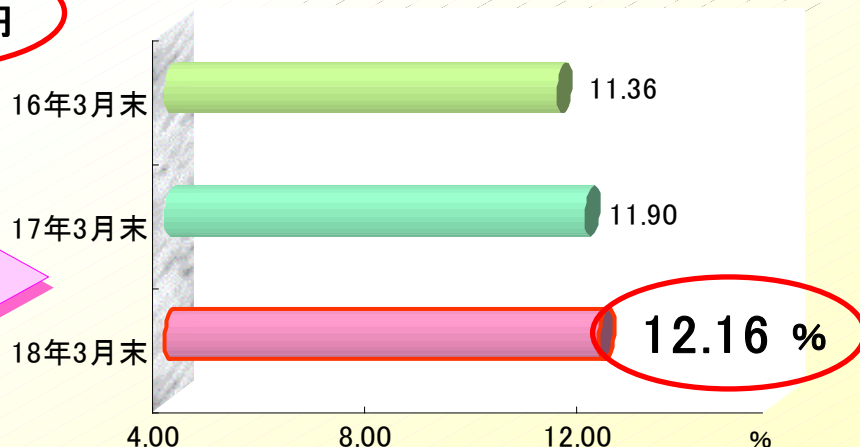


地銀トップクラスの含み益

国際基準の8%を十分にクリア

地銀トップクラス

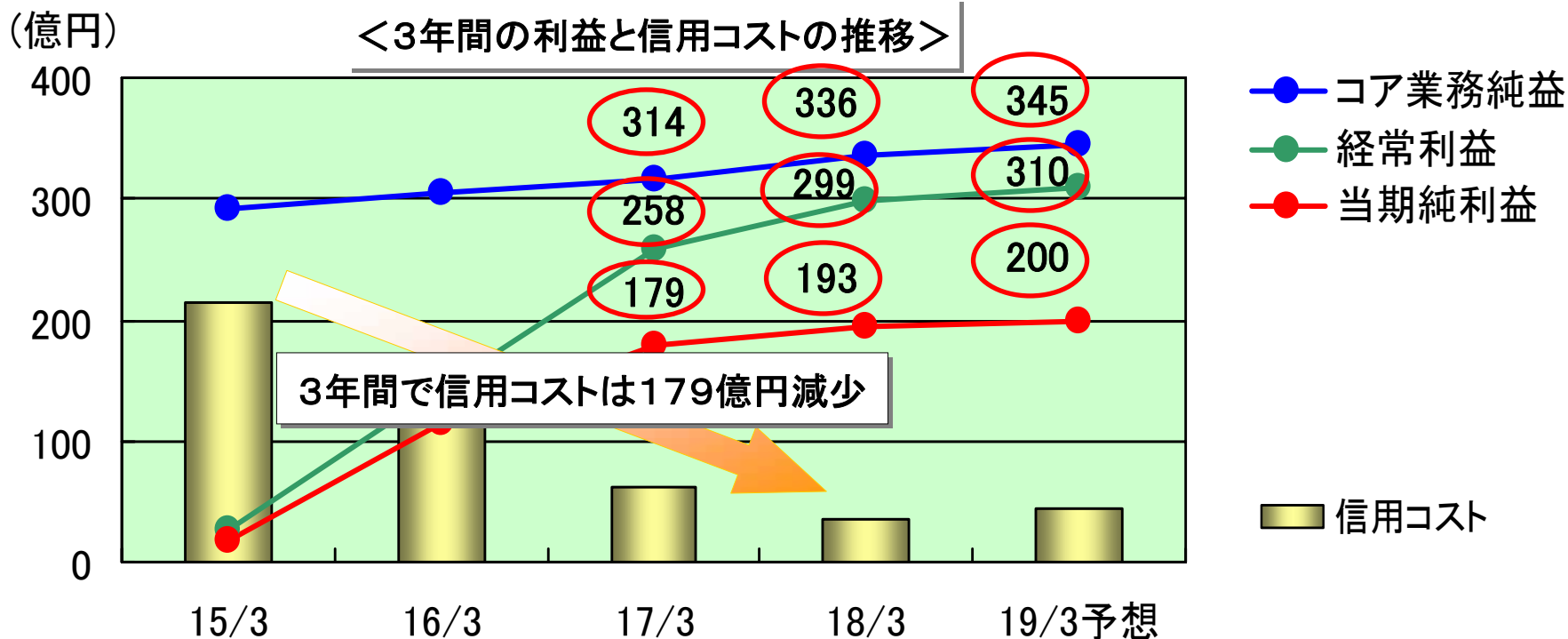
<自己資本比率(連結)の推移>



高い健全性が評価され、外部格付「AA-」を取得いたしました

利益の推移

- コア業務純益・経常利益・当期純利益ともに過去最高となりました
- その要因は信用コストの大幅減少によるものです



配当の推移

16/3期
5.0円

17/3期
6.0円

18/3期
7.0円

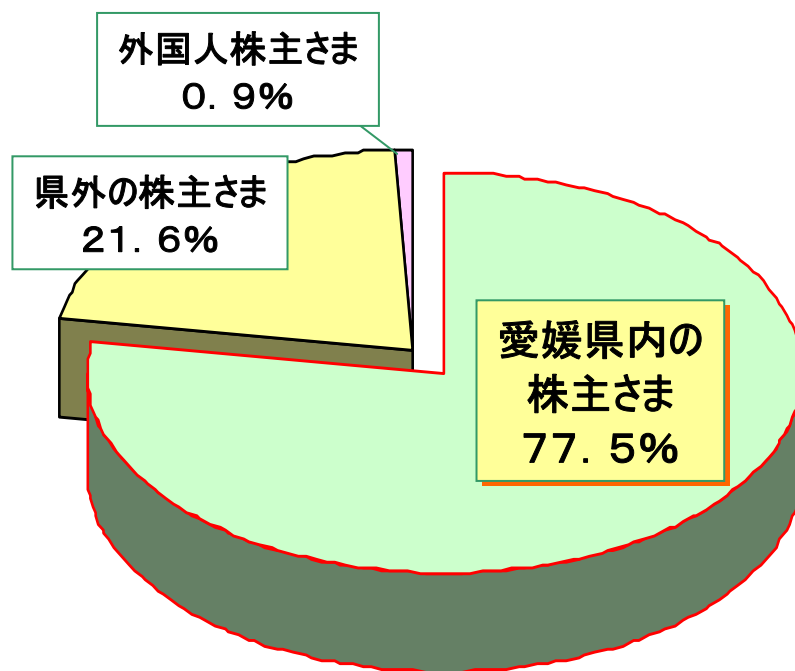
19/3期
7.5円(予定)

- ◇ 過去最高益を受けて、増配いたしました
- ◇ さらに今期(中間期)は記念配当を実施する予定です

株主さまの状況

● 約8割が愛媛県内の株主さまです

< 株主さまの構成比 >



18年3月末の
株主さま
15,803先

当行株価の推移



当行株価は、堅調に推移しております

(日経平均: 円)

